

## シラバス

科目名	保育実習 I (保育所)		担当者名	河野 亮子	
学 科	幼児保育学科保育士・幼稚園教諭 2種コース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開 講 期 必・選	必修	授 業 時 間 数	108時間
授業目的	保育実習を円滑に行う為に必要な事柄を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えが出来るとともに、保育実習に必要な知識・技術・実践力を身に付ける。				
授業概要	保育実習とは、保育者養成課程において習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連付ける力と、保育実践にこれらの知識や技術を応用する力を養い、子ども達を取り巻く保育現実の理解を通して、保育の理論と実践の関係について習熟させるものである。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	保育所とは(役割・機能等)	19		
	2	発達過程について(0・1・2歳児)①	20		
	3	発達過程について(0・1・2歳児)②	21		
	4	発達過程について(3・4・5歳児)③	22		
	5	発達過程について(3・4・5歳児)④	23		
	6	レポート指導	24		
	7	保育技術 絵本の読み聞かせ	25		
	8	保育技術 紙芝居の演じ方	26		
	9	保育技術 折り紙の折り方	27		
	10	保育技術 手遊び	28		
	11	保育所保育指針について①	29		
	12	保育所保育指針について②	30		
	13	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ①	31		
	14	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ②	32		
	15	実習日誌の記入方法	33		
	16	指導計画の記入方法	34		
	17	保育所実習事前準備について	35		
18	1回目～17回目の振り返り・テスト	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70点 C69～60点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当者名	西川 美岐		
学 科	幼児保育学科 保育士・幼稚園教諭2種コース		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	必修	授 業 時 間 数	36時間	
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現「領域」から見出し保育指導法を修得していく。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。					
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ					
授業 計画 表	授業内容			授業内容		
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19			
	2	ダルクローズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20			
	3	基礎リズム1 歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21			
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22			
	5	基本動作1 基本動作の実践	23			
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24			
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25			
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26			
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27			
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28			
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29			
	12	ボディーパーカッションについての実践	30			
	13	ボディーパーカッションについての実践	31			
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32			
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33			
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践幼児が持つ表現への意	34			
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35			
18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36				
成績割合	テスト	30パーセント	学習FB方法	成績表送付		
	学習態度・出席率	50パーセント				
	レポート	20パーセント	成績評価	出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60					
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。					

## シラバス

科目名	保育内容総論		担当者名	國分 啓子	
学 科	幼児保育学科 保育士・幼稚園教諭2種コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 必修	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的援助等について保育の流れを概観し、ある領域に偏って指導されるものではなく、相互に関連をもちながら総合的に展開するものであることを保育実践と結びつけながら学んでいく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解したうえで実践への展開をおこなう。保育現場における保育者の役割に対する理解を深める。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をテキストとして用いながら、これら園役割、機能について理解する。さらに領域の捉え方を踏まえた上で、各領域におけるねらいや内容とこどもの発達について理解していく。グループでの取り組みを通して、総合的な指導の必要性についての理解を深め、保育指導計画を立案・展開し、学生による相互評価なども行う。				
授業 計画 表	授業内容		授業内容		
	1	保育内容総論とは ① 保育内容総論を考える	19		
	2	保育内容総論とは ② 育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	20		
	3	保育内容の歴史の変遷 ① 明治・大正・昭和の保育内容	21		
	4	保育内容の歴史の変遷 ② 平成の保育内容の変遷と今後の課題	22		
	5	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え ① 幼稚園教育要領	23		
	6	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方 ② 保育所保育指針	24		
	7	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え ③ 認定こども園教育	25		
	8	レポート作成・指導 ①設題に対するの作成の手引き	26		
	9	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ① 乳幼児にとつての園行事の意味と在り方	27		
	10	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ② 保幼小の円滑な連携	28		
	11	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ① 環境を通して行う保育	29		
	12	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ② 遊びによる総合的な保育	30		
	13	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ① 全体的な計画の作成	31		
	14	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ② 指導計画の作成手順と配慮	32		
	15	保育の評価と保育記録 ① 子ども理解(幼児理解)に基づく評価	33		
	16	保育の評価と保育記録 ② 観察記録を書く意味と子ども理解	34		
	17	保育内容の現代的課題について ① 子育て支援	35		
	18	保育内容の現代的課題について ② 特別な配慮を必要とする子どもの保育	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上を基本とし、受講態度やグループワーク、試験結果などを総合的に評価する。合格は60点以上とする。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

## シラバス

科目名	保育実習 I (保育所)		担当者名	河野 亮子	
学 科	幼児保育学科大学コース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開 講 期 必・選	必修	授 業 時 間 数	108時間
授業目的	保育実習を円滑に行う為に必要な事柄を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えが出来るとともに、保育実習に必要な知識・技術・実践力を身に付ける。				
授業概要	保育実習とは、保育者養成課程において習得しつつある教科の知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連付ける力と、保育実践にこれらの知識や技術を応用する力を養い、子ども達を取り巻く保育現実の理解を通して、保育の理論と実践の関係について習熟させるものである。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	保育所とは(役割・機能等)	19		
	2	発達過程について(0・1・2歳児)①	20		
	3	発達過程について(0・1・2歳児)②	21		
	4	発達過程について(3・4・5歳児)③	22		
	5	発達過程について(3・4・5歳児)④	23		
	6	レポート指導	24		
	7	保育技術 絵本の読み聞かせ	25		
	8	保育技術 紙芝居の演じ方	26		
	9	保育技術 折り紙の折り方	27		
	10	保育技術 手遊び	28		
	11	保育所保育指針について①	29		
	12	保育所保育指針について②	30		
	13	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ①	31		
	14	発達を促す遊び・関わり・実践例を学ぶ②	32		
	15	実習日誌の記入方法	33		
	16	指導計画の記入方法	34		
	17	保育所実習事前準備について	35		
18	1回目～17回目の振り返り・テスト	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70点 C69～60点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

## シラバス

科目名	保育内容総論		担当者名	國分 啓子	
学 科	幼児保育学科大学コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 必修	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的援助等について保育の流れを概観し、ある領域に偏って指導されるものではなく、相互に関連をもちながら総合的に展開するものであることを保育実践と結びつけながら学んでいく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解したうえで実践への展開をおこなう。保育現場における保育者の役割に対する理解を深める。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子ども姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をテキストとして用いながら、これらの園の役割、機能について理解する。さらに領域の捉え方を踏まえた上で、各領域におけるねらいや内容と子どもの発達について理解していく。グループでの取り組みを通して、総合的な指導の必要性についての理解を深め、保育指導計画を立案・展開し、学生による相互評価なども行う。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	保育内容総論とは ① 保育内容総論を考える	19		
	2	保育内容総論とは ② 育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	20		
	3	保育内容の歴史の変遷 ① 明治・大正・昭和の保育内容	21		
	4	保育内容の歴史の変遷 ② 平成の保育内容の変遷と今後の課題	22		
	5	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え ① 幼稚園教育要領	23		
	6	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方 ② 保育所保育指針	24		
	7	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え ③ 認定こども園教育	25		
	8	レポート作成・指導 ①設題に対する作成の手引き	26		
	9	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ① 乳幼児に とっての園行事の意味と在り方	27		
	10	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ② 保幼小の円 滑な連携	28		
	11	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ① 環境を 通して行う保育	29		
	12	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ② 遊びに よる総合的な保育	30		
	13	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ① 全体的な 計画の作成	31		
	14	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ② 指導計画 の作成手順と配慮	32		
	15	保育の評価と保育記録 ① 子ども理解(幼児理解)に 基づく評価	33		
	16	保育の評価と保育記録 ② 観察記録を書く意味と子ども 理解	34		
	17	保育内容の現代的課題について ① 子育て支援	35		
18	保育内容の現代的課題について ② 特別な配慮を必要とする 子どもの保育	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上を基本とし、受講態度やグループワーク、試験結果などを総合的に評価する。合格は60点以上とする。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>60% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>20% G<海外体感型学習>				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

## シラバス

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当者名	西川 美岐		
学 科	幼児保育学科大学コース		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	必修	授 業 時 間 数	36時間	
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現「領域」から見出し保育指導法を修得していく。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。					
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ					
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容		
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19			
	2	ダルクロワーズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20			
	3	基礎リズム1 歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21			
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22			
	5	基本動作1 基本動作の実践	23			
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24			
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25			
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26			
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27			
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28			
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29			
	12	ボディーパーカッションについての実践	30			
	13	ボディーパーカッションについての実践	31			
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32			
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33			
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践幼児が持つ表現への意	34			
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35			
18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36				
成績割合	テスト	30パーセント	学習FB方法	成績表送付		
	学習態度・出席率	50パーセント				
	レポート	20パーセント	成績評価	出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60					
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。					